

# 手賀沼知るデジタル教材

## 動植物や歴史

柏市と我孫子市にまたがる手賀沼の環境保全に取り組む「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」(美手連)は、両市や麗沢大(柏市)の学生の協力を得て、小学3、4年生の総合学習の授業などで使えるデジタル教材を開発した。手賀沼の動植物や歴史など傘下の団体が蓄積してきたデータやノウハウを動画などに盛り込んだ。(木村透)

## 環境保全団体が開発

開発したのは、動画4本つくしくくせつけん物語と、デジタル化した紙芝居「スズメさんの見聞記」など計7教材。「手賀沼をうよ」と話す祖母と孫とのや



手賀沼のデジタル教材製作に取り組んだ野口さん

り取りを通して、手賀沼の歴史や水質汚染の問題を説明する。ナガエツルノゲイトウなど外来水生植物の駆除の難しさを解説する動画もある。

教材開発のプロジェクトを率いた野口隆也さん(78)は、国のGIGAスクール構想でデジタル教材は増えているものの、「小学3、4年生で学ぶ地域学習では既製品が少なく、先生たちが困っているという話を聞いた」と明かす。柏市の小学校教諭から手賀沼の教材について尋ねられたこともきっかけとなり、教材作りに動き出した。

傘下団体は、豊富な知見やアナログ資料を持っており、デジタル資料に転換できれば、様々なテーマの教材ができると考えた。「デジタル化は、子どもたちのためだけでなく、メンバー

の高齢化が進む各団体にもメリットがある。デジタル化を通じ、若い世代を団体に呼び込めれば一石二鳥だ」。野口さんはそんな狙いも口にする。

柏、我孫子両市の教育委員会などから意見を聞き、デジタル化に向けた作業では、地域連携実習に取り組む麗沢大の学生の力を借りた。製作費用は約25万円で、県環境財団の20万円の助成を活用した。

美手連は、市民や小学校教諭らに教材を披露する発

表会を、我孫子市の「水の館」で10日に開く。今月中旬に両市に寄贈する予定で、早ければ今学期中にも実際の授業で活用されるという。

1995年に設立された美手連は、「我孫子野鳥を守る会」や「流山市立博物館友の会」など手賀沼周辺各市の19団体が構成されている。事務局長の竹内順子さん(68)は「今後もデジタル教材を開発していく。周辺地域の先生たちにぜひ活用してもらいたい」と話している。